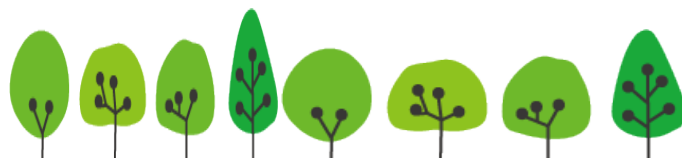


ごえん 誤嚥性肺炎の予防

【症例報告】

- 港区 M様 82歳男性
脳梗塞後遺症
- 週2回治療



Mさんはもう長い間、脳梗塞後遺症で寝たきりの生活をしています。最近では発語も乏しくなり、「うん」「いい」「痛い」しか言葉に出さなくなっています。それとあいまって、唾液の誤嚥による「むせ」や咳込みが多くなり、一度、誤嚥性肺炎で入院をしました。退院後、再び肺炎を起こすまいと、予防への取り組みが始まりました。

その1 会話に巻き込む

舌を動かす機会を増やすこと。これが家庭でできる一番のリハビリです。治療中に楽しい会話で盛り上がると、その余韻でご家族同士が話すことも増えてくるようです。

その2 舌の拘縮を緩和させる

Mさんの下顎に触れると、舌の筋肉が硬くなっていて、拘縮傾向にあることがわかります。口から栄養を摂らない方は、よりその傾向が強くなります。

治療では、拘縮している舌の筋肉に弾力性を与え、嚥下に関する筋肉を動きやすくし、唾液を飲み込みやすくしていきます。

Mさん、治療中の会話にも少しずつ参加してきました。

「近ごろは、むせなくなってきました」とのご報告を頂きました。

(文責：F・K)

